

出張報告書

平成28年7月2日

市議会議長 岸田 厚 様

会 派 名 刷新クラブ

代表者氏名 京西 且哲

下記のとおり報告します。

記

1 目 的

- ① 愛媛県今治市：道の駅の取組について
- ② 広島県呉市：債権回収について

2 出 張 先

- ① 愛媛県今治市：道の駅：多々羅しまなみ公園・しまなみの駅御島
- ② 広島県呉市：呉市役所

3 出張期間 平成28年6月27日(月)～28日(火)

4 出張者氏名 京西且哲・西田武史・金子拓矢

5 てん末報告 別紙とおり

報告書

会派名 刷新クラブ

代表者 京西 且哲

愛媛県今治市：道の駅の取組について

説明者：矢野直樹（株式会社しまなみ経営企画室）・藤原史宣（株式会社大三島ものづくり社長）・渡邊（しまなみの駅御島駅長）

内 容：今治市では、1999年にしまなみ海道が整備されて以来、5つの道の駅を管理運営してきたが、2006年より3社との指定管理契約に転換され今日に至っている。5つの内3か所を管理している株式会社しまなみでは、物販よりも食事による収入が大半をしめており、戦略的に修学旅行の獲得に力をいれている。また、県が行うイベントにも積極的に強力する他、自社独自の急流観潮船などを手掛けている。これらの取組により、年々売り上げを伸ばし、地域農商業との連携や外国人対応にも力を入れ、素通り観光地からの脱皮を目指している。一方、株式会社大三島ものが管理しているしまなみの駅御島では物販のみであるが、隣接する大山積神社・大三島美術館・ところミュージアム・伊東豊雄建築ミュージアム・岩田健母と子のミュージアムへの参拝客等を主に地域の農家からの出荷品の販売や独自のイベント等に力を入れている。どちらの道の駅もやり方は違うが、それぞれの立地条件や企業努力で年々売り上げを伸ばしているようだ。

まとめとして、指定管理制度を活用する事により、民間の

活力を利用する事により、地域や時代のニーズに合わせた事業展開が出来る成功例であったと思う。本市においても今後、民間に指定管理出来るような施設を考え、また、今指定管理している事業者とも問題提議しながら地域の活性化に努めるべきである。

広島県呉市：公債権回収について

説明者：呉市債権回収対策室 室長神田氏

内容：呉市は人口22万人を要する中核市である。人口規模も本市と近く、中核市を目指すとする本市にとっては広く参考にすべき自治体の一つでもある。人口減少に伴う税収の減少はあらゆる自治体にとって今後ますます懸念されるところであり、歳入確保の面からも市税等公債権の収納率向上は当然改善されるべき課題である。その解決を効率的に行うには滞納処分を専門的に行う部署が必要である。呉市は平成17年にそこへの対策として債権回収対策室を立ち上げている。収納課内にはあるがスムーズな実務を行えるように決裁権のある独立した組織として位置付けられ、室長以下僅か五名の人員で構成されている。市税、国民健康保険料、後期高齢者医療保険料、介護保険料、保育料、等の公債権を扱うものである。

それぞれ一義的な徴収努力は主管課が行い、そこでの徴収が難しく所定の条件を満たすものにつき同室が移管を受け、財産調査と差し押さえの実行等を行う。また、現在は同室への移管が原則であり主管課が同室に移管しない場合は、移管しない旨の理由書を付けなければならない取り決めで

ある。

主管課の意識変化や努力もあるとのことであったが直近五年だけを見ても市税滞納者数が3000人以上、国民健康保険料滞納者数が1000人以上それぞれ減少している。

因みに私債権については、同室は法に基づく調査権がなく、公債権回収にあたって知りえた個人情報私債権回収の際に利用はできないため、その回収業務を直接行うことが出来ないが、同室が主管課へ納付への交渉につき助言を行うことで、回収改善に繋がっている。

専門性の高い分野になることに加え、敬遠されやすい部署でもあるため担当職員の選定が難しい。しかし、税の公平性を追求するのは公務に服する者の当然の姿勢であり、本市でも債権回収専門部署を立ち上げる必要があると考える。